



## 第 59 回

日本糖尿病学会年次学術集会が

5月19日(木)～21日(土)に国立京都  
国際会館ロームシアター京都みやこめっせにて  
開催されます。

当院からは、


内科医長 上野 宏行 医師、

2階主任 原田 智恵 看護師、

外来 小谷 智子 看護師、

リハビリ 小田 修平 理学療法士が

学術発表を致しますのでご紹介します。





# 第59回日本糖尿病学会年次学術集会

The 59th Annual Meeting of the Japan Diabetes Society

会期 2016年5月19日(木)~21日(土)

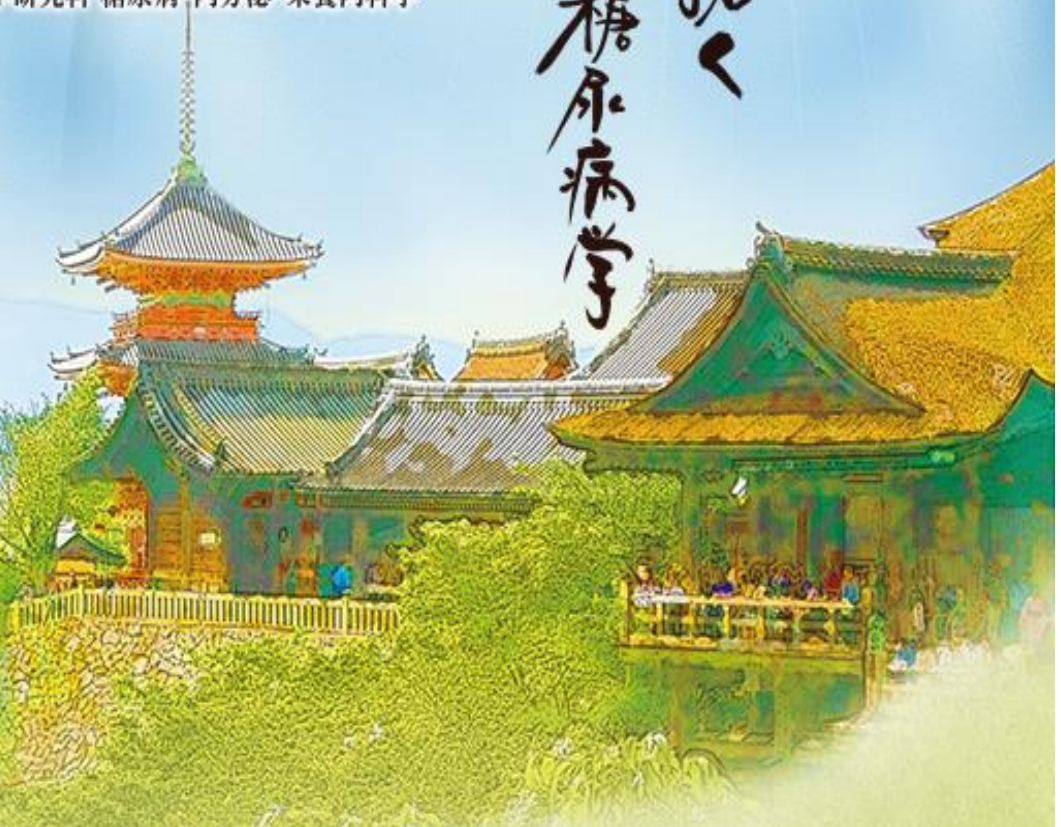
会場 国立京都国際会館  
ロームシアター京都  
みやこめっせ

会長 稲垣 暢也

京都大学大学院医学研究科 糖尿病・内分泌・栄養内科学



の融合が拓く  
あたらしく、糖尿病学





**[I-P-354] 17:40~18:10**

## 2型糖尿病透析患者における頻回注射療法からインスリンデグルデクへの切替症例の検討

座長：江口 英行 / 公立置賜総合病院内科

著者：上野 宏行 / 西の京病院内科

共著者：奥田 憲太郎、五十嵐 美晴 / 西の京病院内科

【目的】血液透析患者におけるインスリンデグルデク単回投与の有用性を検討した。

【対象と方法】外来維持透析中の他の持効型Insを用いたインスリン強化療法及び混合製剤使用中の患者4名。IDegとOHAへの切替を行い、食後血糖値（透析前血糖値）及びGAによる評価を行った。【結果】【症例1】48歳男性Q5-5-5単位→IDeg5；GA28.5%→26.1；PPG296mg/dl→264【症例2】42歳女性30Mix4-0-6→IDeg5；GA24.8→22.8；PPG105→157【症例3】50歳男性30Mix12-0-12→IDeg10；GA16.4→17.4；PPG150.6→76【症例4】67歳女性QQQG4-4-4-12→IDeg14；GA21.4→25.4；PPG160.5→97【考察】インスリン総計は4症例とも約半量となり、GAは2症例で改善傾向となったが、変更前インスリン総計が20単位を超えるものは逆に悪化した。今後、症例数を重ねて統計的検討をしていきたい。

**[II-P-547] 17:40~18:10**

## 血液透析患者における糖尿病の有無による運動能力、筋力、筋量の比較

座長：上田 容生 / 医療法人社団まほし会真星病院糖尿病センター

著者：小田 修平 / 医療法人康仁会西の京病院リハビリテーション科

共著者：内田 亜美<sup>1</sup>、中野 実乃里<sup>1</sup>、明道 知己<sup>1</sup>、松本 大輔<sup>2</sup>、奥田 憲太郎<sup>3</sup>、五十嵐 美晴<sup>3</sup>、上野 宏行<sup>3</sup> / <sup>1</sup>医療法人康仁会西の京病院リハビリテーション科、<sup>2</sup>畿央大学健康科学部理学療法学科、<sup>3</sup>医療法人康仁会西の京病院内科

【目的】

血液透析患者においてサルコペニアの保有率を糖尿病（DM）の有無で比較することとした。

血液透析患者102名（男性64名，女性38名，平均年齢66.1±10.7歳）を対象とした。

評価項目は，筋量を測定し，四肢骨格筋量指数を算出した。また，最大歩行速度，握力，片脚立位時間を測定した。また，サルコペニアはAWGSの診断基準を用いて判定した。統計解析は各項目をDM群，非DM群の2群で比較を行った。

【結果】

運動機能は，片脚立位は有意にDM群が低値を示したが，歩行速度，握力には有意差は認められなかった。サルコペニア判定者はDM群2.6%，非DM 0%であったが，握力および歩行速度の低下者はDM群25.6%，非DM群28.6%存在した。サルコペニアには有意差はなかったが，運動機能低下を有する者が多かったことから，血液透析患者に対しても早期からの評価，介入が重要であると考えられる。



**[III-岡5-30] 15:00~16:00**

## 外来インスリン導入患者への療養指導の充実に向けての取り組み～外来看護師のアンケート調査から～

座長：関 直人 / 国立病院機構千葉東病院臨床研究部・糖尿病研究室，糖尿病センター

著者：小谷 智子 / 医療法人康仁会西の京病院看護部外来

共著者：黒岩 みゆき<sup>1</sup>、竹中 美鈴<sup>1</sup>、奥田 憲太郎<sup>2</sup>、五十嵐 美晴<sup>2</sup>、上野 宏行<sup>2</sup> / <sup>1</sup>医療法人康仁会西の京病院看護部外来、<sup>2</sup>医療法人康仁会西の京病院医局

外来インスリン導入患者を担当している看護師は通常業務と療養指導を兼務している。外来全体で療養指導に取り組む事で、看護力の向上を図る事ができると考え、指導の充実に向けた取り組みを検討した。

糖尿病看護の現状を評価する為、アンケートを実施し、勉強会を開催した。情報収集に必要な、病歴・合併症・患者背景・食事・運動・SMBG・受診状況・疾患に対する認識をデータベース化した。また、勉強会前後で看護師の行動がどう変化したかアンケートを実施し、評価した。

その結果、病態・薬物療法・SMBG・合併症・低血糖・高血糖・シックデイ・フットケアの項目で勉強会前と比べ、理解度が増えた。

勉強会を行い、意識的に必要な情報収集を行う事で、全体像を把握でき、信頼関係を築けると考える。充実した療養指導の体制作りを行い、患者が行動変容できるように関わる事が今後の課題であると考えた。

**[II-P-683] 18:10~18:40**

## 療養指導の連携システムの構築に対する取り組み

座長：宮川 高一 / 医療法人ユスタヴィア多摩センタークリニックみらい

著者：原田 智恵 / 医療法人康仁会西の京病院看護部

共著者：守 志津枝<sup>1</sup>、竹中 美鈴<sup>1</sup>、岩永 恭恵<sup>1</sup>、奥田 憲太郎<sup>2</sup>、五十嵐 美晴<sup>2</sup>、上野 宏行<sup>2</sup> / <sup>1</sup>医療法人康仁会西の京病院看護部、<sup>2</sup>医療法人康仁会西の京病院内科

### 【目的】

継続した療養指導を実施するために糖尿病チームを発足し、CDEJによる糖尿病外来で療養指導の介入を試みた。

### 【対象と方法】

CDEJ看護師6名と糖尿病療養指導に携わっている外来看護師8名、病棟看護師9名を対象とした。現在の糖尿病患者の継続看護に対する問題点を抽出し指導の連携システムを構築した。同時に外来・病棟看護師に現在の療養指導の連携に対するアンケート調査を実施した。

### 【結果および考察】

抽出された問題点に対して、糖尿病外来の流れを決め指導の介入方法を統一し、記録用紙の改良を行い療養指導の経過を共有した。

連携ができていないという意見が多く聞かれたのは、情報を共有するツールや場がなかったことが考えられ、連携のシステムを導入したことにより、療養指導の連携を図ることができた。